

第243回教育研究評議会議事要録

1. 日 時 平成27年6月9日(火) 13:30~17:00
2. 場 所 事務局 第2会議室
3. 出席者 中井学長、功刀副学長、三浦副学長、神子副学長、
小沢副学長、千葉副学長、
千葉人間発達文化学類長、朝賀評議員、松下評議員、
久我行政政策学類長、田村評議員、鈴木評議員、
真田経済経営学類長、阿部評議員、佐野評議員、
二見共生システム理工学類長、山口評議員、
小島統括学系長、中村事務局長
【オブザーバー】青柳理事、高橋監事
4. 欠席者 佐藤評議員、平山監事(オブザーバー)

5.

審議事項

1. 「ガバナンス総点検について(最終報告)(案)」について 資料1
2. 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について 資料2
3. 第三期中期目標・中期計画(最終案)について 資料3

報告事項

1. 平成27年度学類年度計画の策定について 資料4
2. 福島大学IR室(仮称)設置準備室要項について 資料5
3. 平成27年度重点研究分野(f o Rプロジェクト)の指定について 資料6
4. 平成26年度卒業生・修了生の就職状況等について 資料7
5. ハノーバー大学(ドイツ)及びオザークス大学(米国)との大学間交流協定締結について 資料8
6. 重慶理工大学(中国)との学生交流協定締結について 資料9
7. 「福島県体力向上地域支援委員会(コンソーシアム)協定書の一部追加について 資料10
8. 平成27年度大学教育再生戦略推進費にかかる新潟大学からの連携依頼について 資料11

【確認事項】

第242回教育研究評議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 「ガバナンス総点検について（最終報告）（案）」について

中井学長から、資料1に基づき、中央教育審議会大学分科会「大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）」（H26.2.12）の報告を踏まえ、昨年度より実施してきた本学の管理運営体制全般の点検結果の「最終報告」について提案があった。続いて、南役員室長から、「最終報告」の内容について説明があった。

千葉人間発達文化学類長から、今回のガバナンス総点検の目的の一つは、よりスピーディな意思決定であることは分かるが、どのような運用をしようと考えているのか、法人化時の「評議会を中心とする審議決定プロセスを可能な限り継承する」という方針は引き継がれているのかという質問があった。

中井学長から、教員会議へは意見聴取という形で意見表明の機会を確保しながら評議会での審議を進めていき、これまでのように学類に付議して1学類でも反対の場合は物事が決定できないということではなく、最終的には学長の判断で決することもあり得ること、また意見聴取を行う際は、丁寧に説明を行うプロセスを大事にし、今後の学長にもそのような運用を継承してほしいと考えているとの発言があった。

松下評議員から、参考資料2の25ページ、「国立大学法人福島大学理事・副学長及び副学長の職務分担等について（案）」では、重要な変更となる副学長の選考方法についても規定しているが、表題に入っていないので分かりづらいため、「選考」についての文言を加えてはどうかとの意見が出された。

また、千葉人間発達文化学類長から、①副学長の選考という重要な事項については、運用レベルの文書とするのではなく、学内規程として作るべきである、②参考資料2の1ページ、学則の改正には評議会の議を経るとしたことについて、評議会が学則改正を審議することは評議会規則に規定されていることであり、改めて書く必要はなく、学則という大学にとって最も重要な規則の改正は、学類教員会議の議を経ることとした現状条文の意義を尊重し、改正は不要であるとの意見が出された。

審議の結果、各学類教員会議へ意見を聴くこととし、継続審議とした。第244回教育研究評議会（7月7日開催予定）で各学類からの戻り報告をすることとした。

(2) 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

功刀副学長から、資料2に基づき、平成27年6月末が提出期限となっている「平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書」について提案があった。

審議の結果、6月15日まで各学類教員から意見聴取を行い、次回教育研究評議会（6月22日開催予定）で審議することとした。

また、各学類教員会議へ、口頭報告することとした。

(3) 第三期中期目標・中期計画（最終案）について

中井学長から、資料3に基づき、第3期中期目標・中期計画（最終案）について、提案があった。

真田経済経営学類長から、①資料3の11ページ【41】についての教員会議で

の意見として、教育研究組織を見直すのであれば、第3期の早い時期にデータ分析を始める必要があるのではないかと、②教育資源の再分配の検討を行う上でも、データ分析が必須である、③これから立ち上がるIR室の情報については、個人情報などを配慮した上で、学内に公開してほしい、④【43】について、科研費採択数は10%を目指すとなっているが、その後の共同研究・受託研究等の受入金額を20%、学術振興及び学生支援の基本額を増加させるというように、単位が金額になっているので、科研費採択についても数ではなく金額での数値目標を立てた方がいいのではないかという意見が出されたとの報告があった。

朝賀委員から、前文の一部について「教育重視」の文言を削除するのであれば、他のところに「教育を重視して」のような形で挿入できないかとの意見が出され、評価室で検討することとした。

審議の結果、6月15日まで各学類教員から意見聴取を行い、次回教育研究評議会（6月22日開催予定）で審議することとした。

また、各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

【報告事項】

(1) 平成27年度学類年度計画の策定について

各学類長から、資料4に基づき、平成27年度学類年度計画について、報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(2) 福島大学IR室（仮称）設置準備室要項について

中井学長から、資料5に基づき、福島大学IR室（仮称）の設置準備室要項について、第367回役員会（6月1日開催）で承認し、制定した旨の報告があった。

質疑では、学生の就職状況や卒業後の実態を把握し、調査することも重要なのではないかと意見が出された。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(3) 平成27年度重点研究分野（foRプロジェクト）の指定について

中井学長から、資料6に基づき、学長が、中井プラン2021で示した『「21世紀的課題」が加速された福島での課題」の解決に結びつく研究を、本学の重点研究分野に指定し、必要な支援を行うことについて報告があった。

特にFプロジェクトは、環境放射能研究所、ILLabとともに本学の重点分野として、長く中心的な課題となるような研究として打ち出していきたいとの発言があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

(4) 平成26年度卒業生・修了生の就職状況等について

三浦副学長から、資料7に基づき、平成26年度に卒業・修了した学生の就職状況等の概要について報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

- (5) ハノーバー大学（ドイツ）及びオザークス大学（米国）との大学間交流協定締結について

小沢副学長から、資料8に基づき、ハノーバー大学（ドイツ）及びオザークス大学（米国）との学術交流協定及び学生交流協定の締結と学生交流に関する細則について、報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

- (6) 重慶理工大学（中国）との学生交流協定締結について

小沢副学長から、資料9に基づき、重慶理工大学（中国）との学生交流協定締結と学生交流に関する細則について、報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

- (7) 「福島県体力向上地域支援委員会（コンソーシアム）協定書の一部追加」について

小沢副学長から、資料10に基づき、平成26年度に締結した「福島県体力向上地域支援委員会（コンソーシアム）協定書」について、平成27年度福島県体力向上支援委員会として計画している事業を行うにあたって、会計処理を行う場合は、コンソーシアムの構成団体の許可を得る必要があるため、その旨を協定書に盛り込む必要があるとの指摘が文部科学省からあり、協定書にその内容を追加したことについて報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

- (8) 平成27年度大学教育再生戦略推進費にかかる新潟大学からの連携依頼について

真田経済経営学類長から、資料11に基づき、新潟大学が標記経費に申請を予定している事業について連携依頼があったこと、また、本学では食農プログラム等での英語授業や、経済経営学類で展開しているグローバル人材育成事業等を通じて事業を提供できると判断し、連携大学として参画を決定したことの報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。